

目標達成のための取り組み（P）		事業主体							令和5年度			令和6年度			令和7年度	備考
		阿武急	事業者	事業者	事業者	事業者	事業者	事業者	実施状況（D）	評価（C）	見直し（A）	実施状況（D）	評価（C）	見直し（A）	実施予定（P）	
基本方針 1 鉄道を軸とした沿線地域の一体的な交通ネットワークの形成																
目標 1 阿武隈急行線とバス交通等の一体的なネットワーク構築とサービス提供																
沿線地域公共交通の路線再編【重点施策】 阿武隈急行線とともに地域の基幹交通を担う路線バスについて、阿武隈急行線と連携した機能強化や効率化を図るために、路線の再編を行う。また、駅から離れた居住地や目的施設等を繋ぐ交通手段として、駅を結節点としたバス交通のネットワークを形成する。		●		●				●			継続	●福島県県北地域を繋ぐ広域路線（路線バス）再編に向けて、協議を実施した。【伊達市】 ●福島県内バス無料デーを2/27と3/8の2日間実施した【福島県】	●利用実態、利便性確保に向けた協議を関係団体と進めることができた。【伊達市】 ●普段より多くのお客様にご利用いただいたほか、アンケート調査に3,000件以上の回答を頂き、利用動向のデータを得ることができた【福島県】	継続	●10月より一部路線の統合を実施【伊達市】 ●イオンモール伊達開業に向けた路線バスの再編や鉄道アクセス線について協議を継続する。【伊達市】 ●利用状況や利用動向データの分析を進め、バスのみならず鉄道等を含めた公共交通の利用促進に活用する【福島県】	
駅の案内表示・広報方法の改善 来訪者や観光客が駅から目的地まで迷わず移動できるようにする。		●						●	●ポケット時刻表に沿線のタクシー会社連絡先を掲載した。【会社】 ●市町独自の時刻表を作成した。【角田市、丸森町】 ●老朽化した駅案内板の修繕を実施【角田市】	●ポケット時刻表に沿線のタクシー会社の連絡先を掲載することにより、お客様が目的地まで迷わずに移動できるよう努めた。【会社】 ●利便性の向上が図られた。【角田市】 ●時刻表を作成したことで、案内強化及び公共交通利用の利便性向上が図られた。【角田市、丸森町】	継続	●ポケット時刻表に沿線のタクシー会社の連絡先を掲載することにより、お客様が目的地まで迷わずに移動できるよう努めた。【会社】 ●福島市公共サインガイドラインを作成【福島市】 ●運行ダイヤの変更に合わせ、独自の時刻表を作成。【角田市】 ●町独自の時刻表を作成した。【丸森町】	●ポケット時刻表への沿線のタクシー会社連絡先掲載【会社】 ●案内サインが適した場所に設置され、かつ案内が分かりやすくなり、改善が期待される【福島市】 ●利便性の向上が図られた。【角田市】 ●時刻表を作成したことで、案内強化及び公共交通利用の利便性向上が図られた。【丸森町】	継続	●ポケット時刻表に沿線のタクシー会社の連絡先を掲載することにより、お客様が目的地まで迷わずに移動できるよう努める。【会社】 ●福島駅東口駅前広場の案内サインの設置を予定【福島市】 ●運行ダイヤの変更に合わせ、市独自の時刻表を作成予定。【角田市】 ●運行ダイヤが変更した場合に町独自の時刻表を作成予定【丸森町】	
駅阿武隈急行線を基軸とした一体的交通サービスの提供（地域MaaSの展開）【重点施策】 目的地までの複数の交通手段（鉄道・バス・タクシーなど）をパッケージ化して「1つのサービス」として提供することで、利用者の目線から分かりやすさと利便性の向上を目指す。		●		●	●	●		●	●角田駅を発着点とした市内循環バスの試験運行を実施（6月～11月）【角田市】 ●丸森町地域公共交通計画を策定【丸森町】 ●シンケンファクトリーと連携した企画乗車券の開発【会社】	●角田駅からの移動手段の確保として延べ106人の利用があった。【角田市】 ●1日間で32名の方にシンケンファクトリーランチ付乗車券をご利用いただいた。【会社】	継続	●シンケンファクトリーと連携した企画乗車券の開発【会社】 ●角田駅を発着点とした市内循環バスの試験運行を実施。（6月～11月）【角田市】 ●鉄道を含む県内の様々な公共交通情報を集約して、経路や乗り換え方法を検索できる「ふくしま公共交通デジタルマップ（愛称：FLAT（フラット、福島大生考案）」を公開した【福島県】	●1日間で42名の方にシンケンファクトリーランチ付乗車券をご利用いただいた。【会社】 ●角田駅からの移動手段の確保として延べ159人の利用があった。【角田市】 ●令和7年3月31日に公開した【福島県】	継続	●沿線の施設と連携した企画乗車券の開発を調整【会社】 ●角田駅を発着点とした市内循環バスの試験運行の見直しを行う。【角田市】 ●コミュニティバスやデマンド交通、レンタサイクル等の情報を順次公開しながら内容の充実を図る【福島県】	

阿武隈急行線地域公共交通網形成計画の取り組みについて

目標達成のための取り組み（P）	事業主体						令和5年度			令和6年度			令和7年度			備 考	
	阿武急	事業者 他鉄道 事業者	事業者 バス 事業者	事業者 タクシー 事業者	市・町・民	事業者 民間 事業者	実施状況 (D)	評価 (C)	見直し (A)	実施状況 (D)	評価 (C)	見直し (A)	実施予定（P）				
基本方針2 鉄道沿線の交通まちづくりの推進																	
目標2 駅を中心としたまちづくりの推進																	
駅周辺におけるイベント・行催事等との連携【重点施策】 地域のイベント等への交通手段として公共交通の利用を促進する。	●						・シンケンファクトリーと連携した企画乗車券の開発【会社】 ・あぶQウォークにて市内特産品（ゆずまんじゅう・福島夜曲等）を配布した。【福島市】 ・福島市市場まつりへのブース出展、阿武急利用者へ場内で使用できる金券を配付した。【福島市】 ・伊達市商工会が実施する「伊達のふる里夏まつり（梁川駅前会場）」に併せて企画切符を販売した。【沿推協】 ・CCAC推進事業者によるふるさと交流プロジェクト事業の実施【伊達市】 ・観光庁インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業を活用し、臨時列車を用いてレストラン列車と運転体験のモニターツアーを実施した。【伊達市観光促進実行委員会】 ・あぶQウォークにて市内特産品（宇宙グッズ等）を配布した。【角田市】 ・あぶQウォークを耕野エリア、羽出庭エリアで2回実施した。【丸森町】 ・住民自治組織や地元住民だけでなく、飲食店と連携しイベントを実施。【丸森町】 ・県内沿線市町が実施する利用促進事業（あぶQウォーク等）に対して、助成を行った。【宮城県】			継続	・シンケンファクトリーと連携した企画乗車券の開発【会社】 ・あぶQウォークにて市内特産品（ソフトクリーム引換券、桑の葉スフレ等）を配布。【角田市】 ・阿武隈急行線利用促進イベント（少年野球大会、囲碁・将棋大会）の開催【角田市】 ・あぶQウォークにて町内産品（おにぎり等）を配布した。【柴田町】 ・町内大学と共催のイベント（東北子ども博）で阿武隈急行のグッズ及び乗車券を配布した。【柴田町】 ・あぶQウォークをまちなかエリアで実施した。住民自治組織や地元住民だけでなく、飲食店と連携しイベントを実施。【丸森町】 ・福島県鉄道利用促進事業補助金として、企画列車の運行や沿線イベントと連携した取組等へ8件1,765千円（予定含む）を交付したが、阿武隈急行線での取組はなかった【福島県】 ・県内沿線市町が実施する利用促進事業（あぶQウォーク等）に対して、助成を行った。【宮城県】			継続	・1日間で42名の方にシンケンファクトリーランチ付乗車券をご利用いただいた。【会社】 ・イベントを通じて阿武隈急行線の魅力や福島市特産品をPRした【福島市】 ・金券を配布する際に実施したアンケート調査では、「また金券を使用したいため阿武急で来場したい」が100%であった。【福島市】 ・ハロハロマーケット（毎月第3日曜日開催）やハロハロナイトの開催など、多世代交流の促進や地域コミュニティの情報発信を行っている。【伊達市】 ・市内外からの集客・周遊につながった【伊達市】 ・まつり会場に駐車場がなかったことも後押しし、今年も多くの方に利用いただくことができた。企画切符より通常の切符の方がお得となる地元住民にも配慮し、今年は当日梁川駅で下車した方全員に対し抽選会を実施したことで阿武隈急行利用に対する感謝の意も示すことができた。【沿推協】 各種イベントを通じて阿武隈急行線や角田市の魅力をPRした。【角田市】 ・イベントを通じて阿武隈急行線と町の魅力をPRした。【柴田町】 ・参加者は、206名で昨年よりも大きく上回る結果となった。 丸森町役場・辨財天社にて麦茶の配布、齋理屋敷への入館・「ジェラテリアラフスタ」によるジュラト配布を実施。また、ゴール地点でちび丸まんじゅうを配布し、参加者に大好評だった。【丸森町】 ・阿武隈急行線に係る取組はなかったが、地元ならではの視点による企画列車は全席完売となるなど、鉄道の利活用促進や鉄道を活かした地域活性化に大きく貢献した【福島県】	継続	・沿線の施設と連携した企画乗車券の開発を調整【会社】 ・あぶQウォーク（古閑裕而記念館コース）を実施予定【福島市】 ・福島市市場まつりへブースの出展、阿武急利用者へ場内で使用できる金券を配布予定【福島市】 ・CCAC推進事業者による全世代・全員活躍のまち賑わい創出事業の実施【伊達市】 ・ふくしまDCにおけるあぶQウォークと車両基地探検の実施【伊達市】 ・ふくしまDCにおける阿武隈急行車両運転体験の実施【伊達市】 ・駅周辺イベントに対し企画切符を発行することで、車→阿武隈急行利用を促進していく。【沿推協】 ・あぶQウォークにて市内特産品（ソフトクリーム引換券、桑の葉スフレ等）を配布予定。【角田市】 ・阿武隈急行線利用促進イベントの開催【角田市】 ・あぶQウォーク（槻木エリア、1回）を実施予定【柴田町】 ・町内イベント等に合わせて、阿武隈急行のPRを行う予定【柴田町】 あぶQウォーク（あぶくま探索コース）を実施予定。 ・福島県鉄道利活用促進事業補助金を継続し、引き続き地元自治体による路線の利活用を支援する【福島県】 ・県内沿線市町が実施する利用促進事業（あぶQウォーク等）に対して、引き続き助成を行う予定。【宮城県】
駅周辺における居住・都市環境整備の推進 駅を中心としたコンパクトなまちづくりを推進することにより、人口減少・高齢化に対応したまちづくり及び、公共交通の利用を確保することを目指す。						●	・伊達市高子駅北地区CCAC構想に基づく施設をオープン（交流施設・お試し居住施設・多機能型事業所）【伊達市】 ・高子駅北地区住宅建設届出件数:20件【伊達市】		継続	・伊達市高子駅北地区CCAC構想に基づく施設をオープン（交流施設・お試し居住施設・多機能型事業所）【伊達市】 ・高子駅北地区住宅建設届出件数:15件【伊達市】		継続	・高子駅北地区住宅建設届出を随時受付し駅を中心としたまちづくりを進めていく。【伊達市】				
駅周辺における企業・工業団地等の開発促進 駅周辺に企業・工業団地等の開発を図ることで、通勤利用等の増加を目指す。						●	・企業訪問、市企業立地セミナーなど企業誘致活動を実施した。【伊達市】		継続	・民間開発を含めた開発手法について検討した。【伊達市】 ・新たな企業進出のための用地として、角田駅西口の用途地域変更の必要性について検討した。【角田市】		継続	・新たに1社の立地が決定したことで、述べ6社の立地が決定し、保原新工業団地の立地企業6社の内、3社が操業を開始した。【伊達市】 ・駅周辺の状況を把握することができた。【角田市】				
目標3 生活やコミュニティ拠点としての場の提供																	
駅における生活拠点づくり【重点施策】 駅を交通の乗り換え場所としてだけでなく、沿線住民が日常生活で駅に来る目的を創出することで、鉄道利用者の利便の向上とともに、駅に人が集まる拠点づくりを目指す。	●					●	・継続して鉦町駅、梁川駅へ飲食店を出店していただいた。【会社】 ・福島駅東口駅前広場、駅前通り等でマルシェや軽トラ市などイベントが開催された。【福島市】 ・梁川駅舎内で飲食店経営営業【伊達市】 ・保原駅内待合スペース改善の実施検討【伊達市】 ・角田駅前広場を活用した「駅前マルシェ」を開催した。【角田市】	・継続して駅に出店していただくことにより、駅に人が集まる拠点づくりに寄与した。【会社】 ・福島駅の集客、街なか活性化に寄与した。【福島市】 ・鉄道利用者利便性向上と沿線住民が駅に来る目的ができ、阿武隈急行の情報を目にする機会の増加へつながった。【伊達市】 ・定期的な開催により駅前の活性化に寄与した。【角田市】	継続	・継続して鉦町駅、梁川駅へ飲食店を出店していただいた。【会社】 ・福島駅東口駅前広場、駅前通り等でマルシェや軽トラ市などイベントが開催された【福島市】 ・「保原駅を活用したキーテナント実証プロジェクト」により保原駅1階待合スペースの活用について検討を行った。【伊達市】 ・角田駅前広場を活用した「駅前マルシェ」を開催した。【角田市】 ・福島県鉄道利用促進事業補助金として、地元ならではの視点による企画列車と連携した取組等へ8件1,765千円（予定含む）を交付したが、阿武隈急行線での取組はなかった【福島県】	継続	・継続して駅に出店していただくことにより、駅に人が集まる拠点づくりに寄与した。【会社】 ・福島駅の集客、街なか活性化に寄与した【福島市】 ・プロジェクトメンバーによる15回の協議や視察を行い、保原駅で実証実験を行うための企画書を作成した。【伊達市】 ・定期的な開催により駅前の活性化に寄与した。【角田市】 ・阿武隈急行線に係る取組はなかったが、地元ならではの視点による企画列車は全席完売となるなど、鉄道の利活用促進や鉄道を活かした地域活性化に大きく貢献した【福島県】	継続	・継続して鉦町駅、梁川駅へ飲食店等を出店していただく。【会社】 ・福島駅東口駅前広場、駅前通り等でマルシェや軽トラ市などイベントを開催【福島市】 ・保原駅1階にインキュベーションセンター窓口を設置する実証実験を行う。【伊達市】 ・角田駅前広場を活用し「駅前マルシェ」を開催する。【角田市】 ・福島県鉄道利活用促進事業補助金を継続し、引き続き地元自治体による路線の利活用を支援する【福島県】			

目標達成のための取り組み（P）		事業主体							令和5年度			令和6年度			令和7年度		備 考
		阿武急	事業者 鉄道	事業者 バス	事業者 タクシー	県・市・町	地域 団体・住民	事業者 民間	実施状況 (D)	評価 (C)	見直し (A)	実施状況 (D)	評価 (C)	見直し (A)	実施予定（P）		

目標達成のための取り組み（P）	事業主体							令和5年度			令和6年度			令和7年度	備考
	阿武急	事業者 他鉄道 業者	事業者 バス	事業者 タクシー	市・町・民	地域 団体・ 住民	事業者 民間	実施状況 (D)	評価 (C)	見直し (A)	実施状況 (D)	評価 (C)	見直し (A)	実施予定（P）	
目標5 沿線企業・施設等との連携による公共交通の利用拡大															
沿線企業や大学等と連携したモビリティマネジメント【重点施策】 沿線企業・大学等と連携した取り組みにより、マイカーや送迎での通勤から阿武隈急行線での通勤・通学利用への転換を図る。利用頻度が少ない普通券等での通勤利用者には、定期券購入を促して利用頻度を高めることを目指す。	●				●	●	●	・定期券購入を促すべく、定期券を購入していただいたお客様へ景品をプレゼントする企画を実施【会社】 ・同一区間複数人で利用した場合や学校等のイベントで利用した場合に運賃助成を実施。【角田市、柴田町、丸森町】 ・通常運賃での乗車毎に1ポイントを付与し、一定数のポイントで抽選により地域商品券、物産品等を進呈。【角田市、丸森町】 ・市町在住者の学生定期券購入額の2/3助成を実施。【角田市、丸森町】 ・県内市町村が実施する利用促進事業に対して助成を行った。【宮城県】	・計2,813名の方にあぶQプレゼントキャンペーンに応募いただいた。【会社】 ・運賃助成 948件（3,213人利用）、物産品進呈 30件（抽選）、通学定期補助 1,875件【角田市】 ・運賃助成 65件（205人利用）【柴田町】 ・運賃助成 2,186名利用、地域商品券進呈 146枚、通学定期補助 797件【丸森町】	継続	・定期券購入を促すべく、定期券を購入していただいたお客様へ景品をプレゼントする企画を実施【会社】 ・福島学院大学との包括連携に関する協定を締結した。【会社】 ・市内在住の高校生に対し、一定額を超えた定期券購入額の補助を実施した。【伊達市】 ・同一区間複数人で利用した場合や学校等のイベントで利用した場合に運賃助成を実施。【角田市、柴田町、丸森町】 ・市内在住者の学生定期券購入額の1/2助成を実施【角田市】 ・通常運賃での乗車毎に1ポイントを付与し、一定数のポイントで抽選により地域商品券、物産品等を進呈。【角田市】 ・阿武隈急行を通常運賃で利用した場合に1ポイント付与し、10ポイントで地域商品券を進呈した。【丸森町】 ・町内在住者の学生定期券購入額の2/3を助成した。【丸森町】 ・福島県鉄道利用促進事業補助金として、企画列車の運行や沿線イベントと連携した取組等へ8件1,765千円（予定含む）を交付したが、阿武隈急行線での取組はなかった【福島県】 ・県内市町村が実施する利用促進事業に対して助成を行った。【宮城県】	あぶQプレゼントキャンペーンを実施したことにより、定期券購入を促した。【会社】 ・福島学院大学との包括連携に関する協定に基づき、活性化に向けて福島市とともにワークショップを実施している【会社】 ・阿武隈急行利用者への通学費補助 92名【伊達市】 ・運賃助成 1,098件（3,386人利用）【角田市】 ・通学定期補助 1,893件 ※いずれもR7.2までの実績【角田市】 ・物産品進呈 30件（抽選）【角田市】 ・運賃助成 72件（301人利用）【柴田町】 ・運賃助成 2,073名利用【丸森町】 ・地域商品券進呈 110枚【丸森町】 ・通学定期補助 690件 ※2月末時点【丸森町】 ・阿武隈急行線に係る取組はなかったが、地元ならではの視点による企画列車は全席完売となるなど、鉄道の利活用促進や鉄道を活かした地域活性化に大きく貢献した【福島県】	継続	協定に基づき沿線の活性化に向けて連携する【会社】 ・市内在住の高校生に対し、指定額を超えた定期券購入額の補助を継続実施予定。【伊達市】 ・同一区間複数人で利用した場合や学校等のイベントで利用した場合に運賃助成を実施。【角田市】 ・市在住者の学生定期券購入額の1/2助成を実施。【角田市】 ・通常運賃での乗車毎に1ポイントを付与し、一定数のポイントで抽選により地域商品券、物産品等を進呈。【角田市】 ・同一区間複数人で利用した場合や学校等のイベントで利用した場合に運賃助成を実施。【柴田町】 ・同一区間複数人で利用した場合や学校等のイベントで利用した場合に運賃助成を実施予定【丸森町】 ・阿武隈急行を通常運賃で利用した場合に1ポイント付与し、10ポイントで地域商品券を進呈予定【丸森町】 ・町内在住者の学生定期券購入額の往復2/3、片道1/2助成を実施予定【丸森町】 ・福島県鉄道利活用促進事業補助金を継続し、引き続き地元自治体による路線の利活用を支援する【福島県】 ・県内市町村が実施する利用促進事業に対して引き続き助成を行う予定。【宮城県】	
高齢者等の利用促進【重点施策】 沿線の商業・医療施設等と連携した取り組みにより、公共交通の利用促進と施設利用者の利便性向上を目指す。	●				●	●	●	・運転免許を返納された方に対して30%割引となる企画を実施【会社】 ・運転免許返納者に対して回数券を交付【角田市】 ・町内小学生へ夏休みに無料切符を配布した。【丸森町】 ・町内団体による「走る風景画展」を実施した。【丸森町】	・計2,418件の運転免許返納割引切符を発行した。【会社】 ・マイレール意識の醸成に繋がった。【角田市、丸森町】	継続	・運転免許を返納された方に対して30%割引となる企画を実施【会社】 ・運転免許証返納者に対し、回数券を交付した。【角田市】 ・町内小学生に夏休みに無料切符を配布した。【丸森町】 ・町内団体による「走る風景画展」の実施した。【丸森町】 ・福島県鉄道利用促進事業補助金として、企画列車の運行や沿線イベントと連携した取組等へ8件1,765千円（予定含む）を交付したが、阿武隈急行線での取組はなかった【福島県】	・約2,800件の運転免許返納割引切符を発行した。【会社】 ・マイレール意識の醸成に繋がった。【角田市】 ・小学生433名にフリー切符を配布した。【丸森町】 ・マイレール意識の醸成に繋がった【丸森町】 ・阿武隈急行線に係る取組はなかったが、地元ならではの視点による企画列車は全席完売となるなど、鉄道の利活用促進や鉄道を活かした地域活性化に大きく貢献した【福島県】	継続	・運転免許を返納された方に対して30%割引となる企画を実施【会社】 ・運転免許証返納者に対し、回数券を交付予定。【角田市】 ・町内小学生に夏休み無料切符の配布予定【丸森町】 ・町内団体による走る風景画展の実施予定【丸森町】 ・福島県鉄道利活用促進事業補助金を継続し、引き続き地元自治体による路線の利活用を支援する【福島県】	
目標6 交流人拡大のための沿線地域の魅力創出															
鉄道自体の魅力向上【重点施策】 鉄道に乗ること自体を目的とした利用の促進を図る。また、鉄道施設を活用してニッチな鉄道ファン等の利用促進を図る。	●				●	●		・ポケモンのラッピングを施した車両の運行【会社】 ・役場庁舎内ホールや各種のイベント会場において、町内企業が阿武隈急行のプラレールを展示【柴田町内企業】 ・サイクルフェスタにおいて、無料切符とサイクルトレインのチラシを配布した。【丸森町】	・ラッピング車両を運行し、利用促進を図った。【会社】 ・阿武隈急行の魅力や認知度の向上につながった。【柴田町内企業】 ・マイレール意識の醸成及び利用促進を図った。【丸森町】	継続	・ポケモンのラッピングを施した車両の運行【会社】 ・サイクルフェスタにおいて、無料切符とサイクルトレインのチラシを配布した。【丸森町】 ・福島県鉄道利用促進事業補助金として、企画列車の運行や沿線イベントと連携した取組等へ8件1,765千円（予定含む）を交付したが、阿武隈急行線での取組はなかった【福島県】	・ラッピング車両を運行し、利用促進を図った。【会社】 ・サイクルフェスタ参加者420名に配布した。 マイレール意識の醸成及び利用促進を図った。【丸森町】 ・阿武隈急行線に係る取組はなかったが、地元ならではの視点による企画列車は全席完売となるなど、鉄道の利活用促進や鉄道を活かした地域活性化に大きく貢献した【福島県】	継続	・ポケモンのラッピングを施した車両の運行【会社】 ・サイクルフェスタにおいて、無料切符とサイクルトレインのチラシを配布予定。【丸森町】 ・福島県鉄道利活用促進事業補助金を継続し、引き続き地元自治体による路線の利活用を支援する【福島県】	

阿武隈急行線地域公共交通網形成計画の取り組みについて

目標達成のための取り組み（P）		事業主体							令和5年度			令和6年度			令和7年度		備 考
		阿武急	事業者	他鉄道事業者	タクシー事業者	県・市・町・民	地域団体・住民	事業者間	実施状況（D）	評価（C）	見直し（A）	実施状況（D）	評価（C）	見直し（A）	実施予定（P）		
	情報発信の強化【重点施策】 集客力のある有名観光地ではなく、ニッチでディープなスポットを好む個人旅行者を惹きつけるために、SNSを活用した情報発信及びロコミによる情報拡散、集客の仕掛けづくりを通じて地域住民や地域外の応援団を増やすことを目指す。	●				●	●	●	●	●	継続	●	●	●	●	●	●
	沿線観光資源を活用した需要開発 新たな地域の魅力を創出し、鉄道利用増や地域の活性化に貢献する。	●				●	●	●	●	●	継続	●	●	●	●	●	●
基本方針4 安全・安心で持続可能な地域公共交通の構築																	
目標7 阿武隈急行線の安全な運行の確保																	
	老朽化（車両等）の更新【重点施策】 鉄道施設や車両の計画的更新を行う。特に、車両の老朽化が著しい状況であり、2022年度以降に8100系が更新時期を迎えることになる。安全で安定した運行の継続のため、順次車両の更新を行っていく。	●				●					継続				継続		
	駅・待合施設の環境改善【重点施策】 高齢者や障がい者、子供連れに加え、通勤・通学利用者、ビジネス客、観光客など誰しもが利用しやすい駅施設の整備を目指す。	●				●					継続				継続		
目標8 阿武隈急行（株）の経営改善																	
	旅客運賃以外の収入確保【重点施策】 商品開発の企画・販売により、旅客運賃以外の収入確保を目指す。	●				●		●			継続				継続		
	鉄道事業基盤強化【重点施策】 基盤事業の強化により、将来にわたり安定的な鉄道旅客輸送を維持していく。	●				●					継続				継続		